

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

大正火口からの火山ガス放出が続いています。昨日（7月1日）実施した現地調査では、やや多量の火山ガスを観測しました。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、大正火口や62-2火口付近には近づかないよう注意して下さい。また、火口から出た火山ガスが風下側の登山道まで流れてくる場合がありますので、火山ガスにも注意して下さい。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）が継続>

○ 活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1～5）

大正火口から出た火山ガスは十勝岳の北西斜面に流れています。昨日（7月1日）実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたり600トンとやや多量の火山ガスを観測しました。

6月30日以降、大正火口付近が夜間に高感度カメラで明るく見える現象が観測されています。大正火口では高温の状態が続いていると考えられます。

・地震、微動の発生状況及び地殻変動の状況

火山性地震は少なく、火山性微動は観測されていません。傾斜計及びGPS連続観測では特段の変化はありません。

○ 活動評価

十勝岳の地震活動及び噴煙活動は概ね静穏に経過していますが、2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張は継続していますので、火山活動の推移に注意して下さい。



図1 十勝岳 大正火口の火山ガスの状況（7月2日12時19分頃 図5の①方向から撮影）
北海道開発局の望岳台カメラによる



図 2 十勝岳 大正火口の火山ガスの状況（上富良野町（十勝岳の西方約 18km）から撮影）

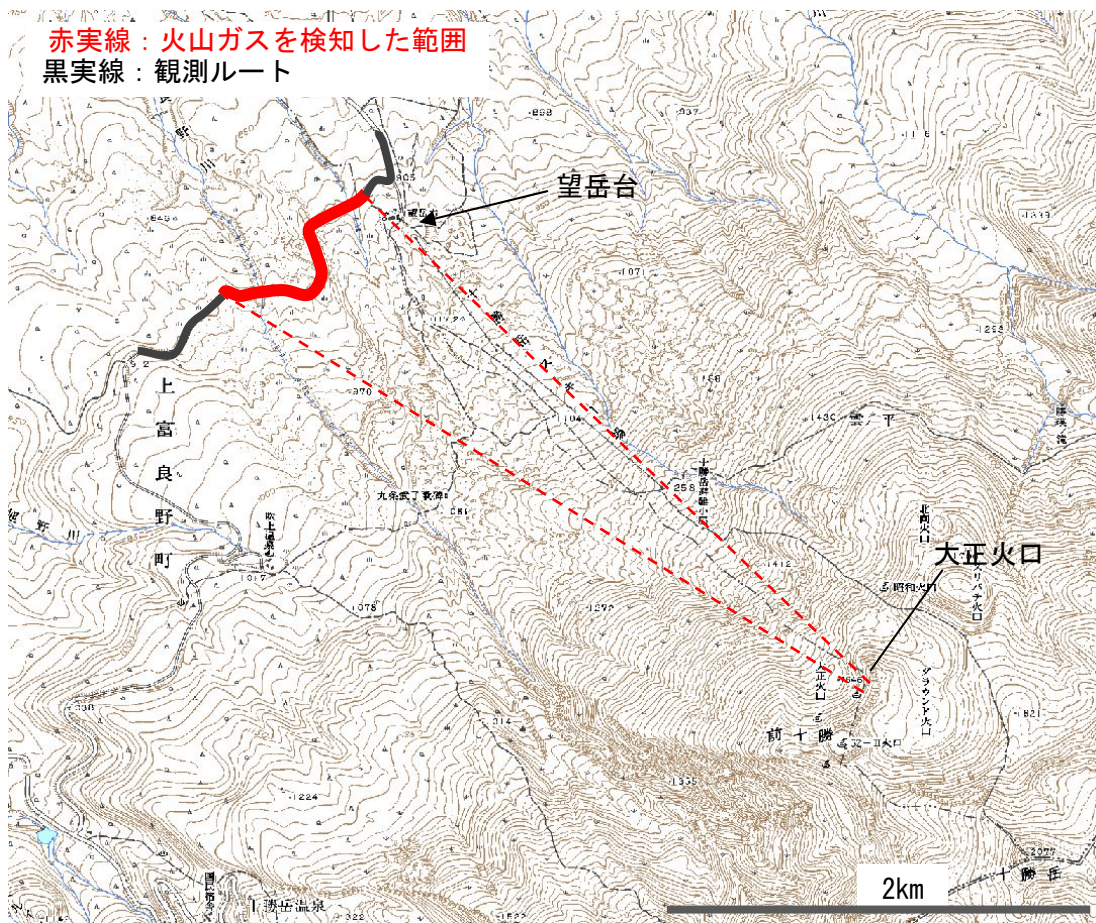


図 3 十勝岳 火山ガスを検知した範囲（7月1日）



図4 十勝岳 大正火口の状況（7月1日23時28分頃 図5の②方向から撮影）



図5 十勝岳 遠望カメラ位置図及び撮影方向